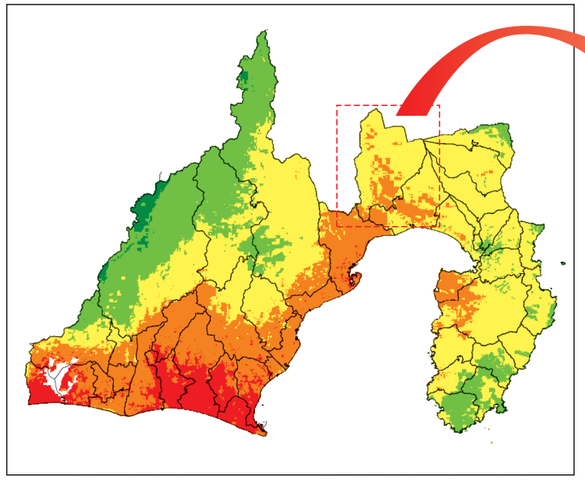
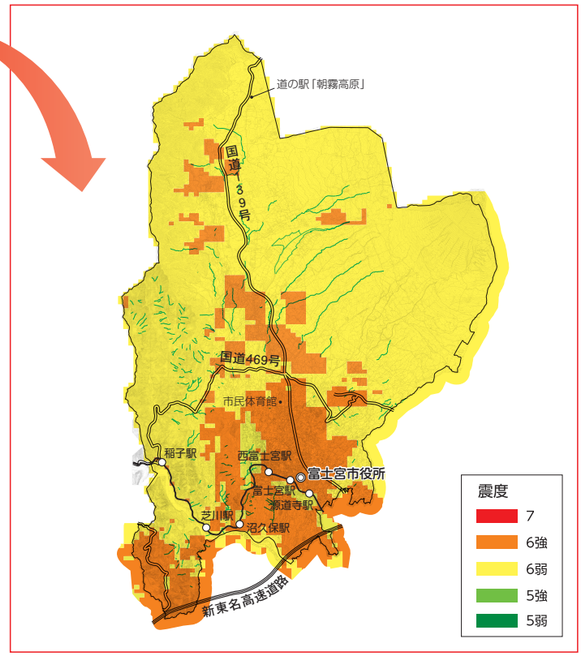
chapter.1
自然災害

地震災害

静岡県第4次地震被害想定

静岡県では、東日本大震災の教訓を生かし、大規模地震対策の基礎資料として活用するため、平成25年度に静岡県第4次地震被害想定を公表しました。富士宮市における最大クラスの地震が発生した場合の主な被害状況は以下のとおりです。





※当市の面積は、389.08km²であり、表中の震度区分面積の合計の384.5km²と異なります。これは、震度区分面積算出時の市境部分の誤差によるものです。

富士宮市における震度分布と震度区分面積

	震度6弱	震度6強
南海トラフ巨大地震（最大クラスの地震）	290.0km²（約75.4%）	94.5km²（約24.6%）

震度階級と想定される被害

7	耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。
6強	はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 地割れが生じたり、大規模な地すべりが発生することがある。
6弱	立っていることが困難になる。 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたり、倒れるものもある。
5強	物につかまらないと歩くことが難しい。 固定していない家具が倒れることがある。 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
4	ほとんどの人が驚く。 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 座りの悪い置物が、倒れることがある。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
0	人は揺れを感じない。

人的被害（死者数）

建物倒壊	津波	山・崖崩れ	火災	ブロック塀の転倒 屋外落下物
約40人	－	約10人	－	－

建物被害（全壊・焼失棟数）

揺れ	液状化	津波	山・崖崩れ	火災
約2,900棟	約10棟	－	約70棟	約1,000棟

生活支障被害

最大避難者数（1週間後）

避難者数	避難所	避難所外
24,512人	12,256人	12,256人

※避難所収容可能人数は、29,500人

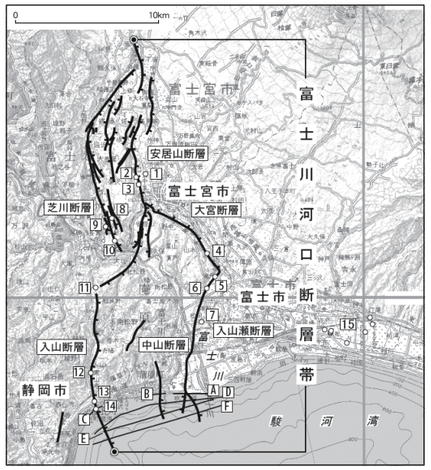
ライフライン被害（機能支障率）

	直後	1日後	7日後	1ヶ月後
上水道	89%	91%	38%	0%
下水道	8%	79%	4%	0%
電力	89%	78%	2%	1%
固定電話	89%	78%	3%	0%
都市ガス	100%	－	－	－
LPガス	25%	－	－	－

富士川河口断層帯

富士川河口断層帯は、様々な断層によって構成される全長約26㎞以上の活断層帯です。富士川河口断層帯は、発見されていない断層が存在するとされており、さらに、近年の調査では、断層がずれ動く方向がこれまでの推定と異なる可能性もあると言われています。このことから、現在も研究者による精密な調査が行われているため、十分に注意する必要があります。

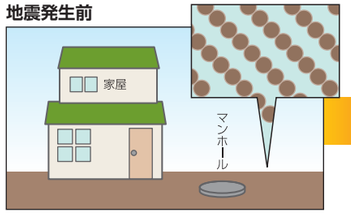
地震の規模		
	単独で発生した場合	マグニチュード7.2以上
	駿河トラフと連動した場合	マグニチュード8.0程度
今後30年以内の地震の発生確率		2%～18%



液状化現象

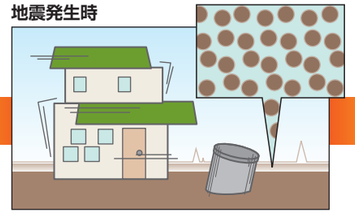
液状化は、水分を多く含む砂質の地盤で発生する現象です。いくら建物に耐震対策をしていても肝心の建物を支える地盤が液状化を起こしてしまえば、建物を支えられなかったり、マンホール等が押し上げられライフラインに支障を起こしてしまいます。今後起こり得るかもしれない地震に備えて、お住まいの地域の地盤がどういった状態なのか知っておくことも大切です。

地震発生前



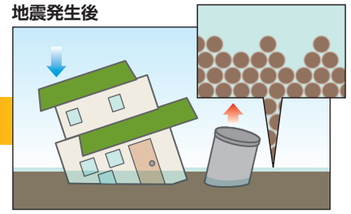
地盤のすき間に水をたくさん含みながら砂の粒子同士が接触し建物を支えています。

地震発生時



地震の震動により、砂の粒子がバラバラになり、水に浮いた状態になります。

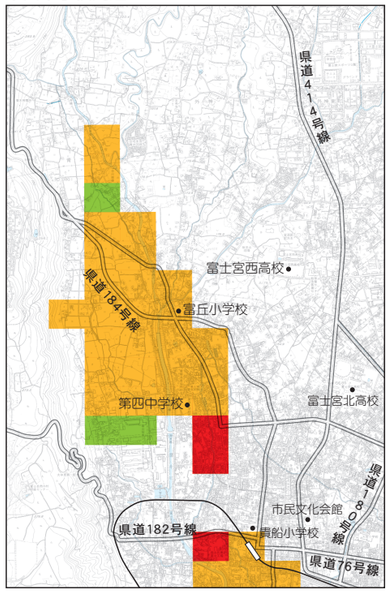
地震発生後



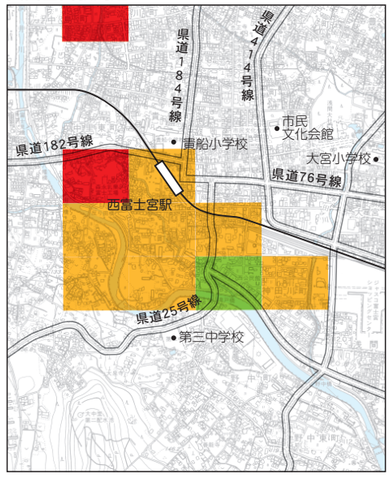
バラバラになった砂の粒子が沈み、地表に水が噴き出します。地盤が建物を支えられなくなり、沈下や倒壊の危険があります。

液状化可能性マップ

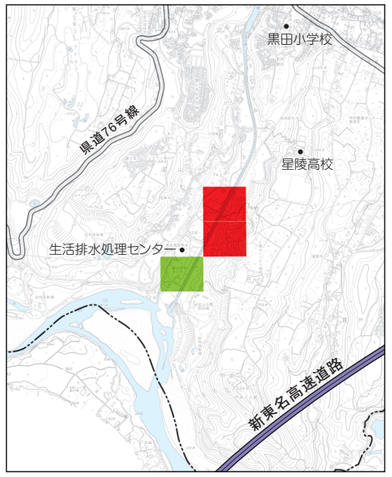
第四中学校周辺



西富士宮駅周辺



生活排水処理センター周辺



液状化可能性ランク

大　中　小